

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	フランテロゼ白壁	階数	地上2階
建設地	名古屋市東区白壁三丁目1903番 他7筆	構造	S造
用途地域	商業地域(過半)、第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2024年4月6日
敷地面積	3,653 m ²	作成者	
建築面積	2,594 m ²	確認日	2024年4月6日
延床面積	5,138 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.5 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境負荷 L (0 to 100) vs 環境品質 Q (0 to 100). The chart shows the building's performance is in the 'S' (Superior) category.	標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです。	Q のスコア = 3.4

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.6 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.2 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
総合 某企業の事務所跡地にスーパーマーケットを建築する計画です。商業地域が過半を占めるものの敷地周辺は、低層住宅が隣接している地域なので、建物ボリュームに配慮し周辺環境に調和する様配慮しました。外装計画も圧迫感が無いように単調とならない様に一部に地域性のある外装材などを採用した計画としております。		建設工事に伴う環境負荷の軽減やゼロエミッションを目指す等、地域環境・地球環境に配慮した施工を心掛けます。
Q1 室内環境 F☆☆☆☆製品、VOC考慮建材を全面的に採用、全館禁煙実施等により、室内環境に配慮した計画としております。	Q2 サービス性能 バリアフリー法の誘導基準を満たし、内装や照明などの色彩・デザイン計画を十分検証し、売場の天井高も3.6mを確保することで豊かな空間となる様に配慮した計画としております。	Q3 室外環境（敷地内） 建物配置・高さ・意匠等について、周辺環境に調和する様配慮した上で、街のシンボルとなるような賑わいの空間を提供できる様な計画としております。
LR1 エネルギー 各種の設備機器は積極的に高効率で省エネルギーに配慮したものを採用し環境負荷の低減にも配慮した計画としております。また、運用面においては中長期保全計画を作成し、建物の運用管理を実施致します。	LR2 資源・マテリアル 節水型器具やリサイクル品などを積極的に採用することで資源や環境負荷の低減に配慮して計画としております。	LR3 敷地外環境 評価には直接影響しませんが、オール電化の建築物として燃焼装置を設けず、室外機・キュービクル等の設備機器も集約して屋上に配置し、近隣周辺環境に配慮した計画としております。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

フ란テロゼ白壁

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.5
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.103234712	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.010323471	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.051617356	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 2.5



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。